

【ポスター発表】

健康老人調査における国連の国際障害統計ワシントン・グループの指標と 基本チェックリスト「気分の落ち込み」の選択状況

—長野県飯山市における調査結果から—

○ 長野保健医療大学 北村 弥生 (003839)

キーワード：生活のしづらさなどに関する調査、不安、憂うつ

1. 研究目的

本稿では、国連国際障害統計のワシントン・グループ（WG）の指標が介護保険サービスを利用していない高齢者（健康老人）を、どの程度「障害がある」と判別したかを明らかにすることを目的とした。WGの指標は、「生活のしづらさなどに関する調査（厚生労働省）」および「国民生活基礎調査（厚生労働省）」での使用が検討されているからである。その結果は、国連の障害者権利条約で提出が義務付けられている政府レポートに利用されると推測される。

WGは、国際比較可能な障害発生率を得るために国勢調査で使う指標を開発することを目的として2001年に立ち上げられ、2006年に短い質問群（ショート・セット、WG-SS）を作成した。短い質問群は、視覚、聴覚、移動、記憶と集中、コミュニケーション、セルフケアの6項目から構成され、「障害者」は「全くできない」「かなり苦勞する」「少し苦勞する」「苦勞しない」の4つの選択肢のうち、「全くできない」と「かなり苦勞する」を選択した者と定義された。この定義では、知的障害と精神障害は捕捉されにくいことは指摘されており、短い質問群強化版（WG-SS Enhanced）では「上肢」「不安」「憂うつ」について6項目を追加することが推奨されている。WGの指標は障害者発生率の国際比較のために開発されたが、高齢者も捕捉することから、本研究では、いわゆる「健康老人」のどの程度を捕捉するかを明らかにすることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

長野県飯山市（人口約2万人）が介護保険サービスを使用していない65歳以上の高齢者6251名を対象に毎年行っている基本チェックリスト（KCL）調査に、WGの指標のうちWG-SS 6項目とWG-SS Enhancedから上肢2項目を追加して質問紙法による調査を実施した。飯山市は長野県北東部に位置し全国有数の豪雪地帯にあつて北陸新幹線の停車駅がある。

WG-SS Enhancedの残りの4項目（「不安の頻度」「不安の程度」「うつの頻度」「うつ の程度」）も追加することが望ましかったが、KCLの「気分の落ち込み」5項目により代用できるかを確認することとした。ただし、紙面の制約により選択肢は4段階でなく2段階（「はい」「いいえ」）とした。返信のうちKCL25項目にひとつでも回答した5683件を有効回答とした（回収率90.9%）。

3. 倫理的配慮

長野保健医療大学の研究倫理審査委員会から承諾を得た(承認番号 2020-4)。本研究は、令和2年度～4年度 厚生労働科学行政推進調査事業費(障害者政策総合研究事業)「現状の障害認定基準の課題の整理ならびに次期全国在宅障害児・者等実態調査の検討のための調査研究」(研究代表者:飛松好子)により行われた。

4. 研究結果

- ①WG 指標 8 項目への回答率は 91.8～97% (無回答率 3～8.8%) であった。無回答率が最も高かったのは聴覚に関する設問で 8.8%であった。
- ②WG-SS6 項目のうちひとつでも「はい」と回答した者の比率(障害発生率)は、全体で 42.4%、64～69 才群で 31.4%、70～79 才群で 36.9%、80～89 才群で 61.2%、90 才以上群で 78.7%であった。
- ③上肢機能に関する 2 項目のどちらかに「はい」と回答した者を WG-SS 6 項目による障害率に加えると、年代群により 1.4%～4.7%多くなった。
- ④WG-SS Enhanced のうち不安、憂鬱に関する設問の代わりとして、「気分の落ち込み」5 項目で 2 つ以上「はい」と回答した者を WG-SS 6 項目による障害率に加えると、全体で 45.4%、64～69 才群で 34.6%、70～79 才群で 40.0%、80～89 才群で 64.0%、90 才以上群で 81.4%で、WG-SS に比べて 2.7%～3.8%増加した。
- ⑤障害発生率は、80 才未満では男性が女性より、80 才以上では女性が男性より高かった。
- ⑥WG-SS のうち身体運動を伴う活動についての 3 項目への障害発生率はすべての年齢群で女性が男性より高かった。

5. 考察

これらの結果から、WG-SS Enhanced の項目を追加しても、健康老人においては障害発生率に大きな増加はないことが示唆された。

本調査の対象者(健康老人)の中には障害者手帳所持者も含まれる。健康老人の中で障害者手帳所持者と非所持者の間の WG-SS の障害発生率の差、障害者手帳所持者で介護保険を利用する高齢者における WG-SS による障害発生率を知ることは今後の課題である。